

青空

コツコツ。ぴたり。コツコツ。ぴたり。

ああ、また迷っていらっしやるの。相談所というところはどうも入りにくいものですね。どうぞ、気持ち落ち着かせてね。よく来ていただきました。ここまで来られたこと自体、あなたの前向きな姿勢がわかりますよ」と、まだ足元しか見えない相手に心で語りかける。

何度か「コツコツ、ぴたり」を繰り返して目の前に金容がようやく見え、そしてきれいに座った。涼しげな目元だが全体的に意志の強さが漂う。「よっこそ」「相対する二人にはとても長く感じられる瞬間である。子どもの時から理工系が好きで技術職を選んだSさん。ほぼ希望通りの職種について十年余。無我夢中で走り続け、仕事とあらば、友達との約束も断り休日労働もいとわず頑張ってきた。ハッと気づくと三十代半ば。部下もでき、社内では押しも押されぬ中堅クラス。将来は初の女性管理職に、という会社からの期待も感じられる。

一方、友達に結婚し、子どもがいる人も出てきた。たまの休みにも声をかけづらくなった。「このままでいいのだろうか。たとえ結

気付くと30代半ば

婚しても、こんな働き方で家庭生活がうまくいくのだろうか。部下には女性の技術職も入ってきたけれど、あの人たちのロールモデルになれるだろうか」。

ひとつ悩みだすと次から次へと堰を切ったように疑問や悩みがどんどんわいてきて、話しているうちに涼しげな目元が洪水状態。職場では涙なんか出したことないのに「と。いいんですよ。ここでは悩みを共有して歩んできたことを振り返り一緒に考えるところですから。

「十年間の軌跡をたどると、大学で専攻した分野がピタリと職種にマッチしていて、社運を賭けた新商品の開発にも加わっていますね。でも家庭生活のことを考えると確かに今のままでほう〜ん。……大丈夫ですよ。思い切って会社に今の悩みをそのまま相談したらいい」

会社の期待感じるけど

「そんなこと、甘えになつて『いいかげんにせい』と言わないかしら」
「大丈夫ですよ。女性がこんなにも頑張るんだというところを見せてくれたあなたを、会社は離しませんよ。太鼓判押ししますよ!!」

半年後、一本のうれしい電話。「実は先月結婚しました。今は結婚生活と仕事を両立しています。しばらくしたら子どもも欲しいし、子育てもしながら両立できないか会社と話し合っています」
そうです、そうです。思っていることは言葉にしなないと伝わりません。女性の働き方は一人一人違います。仕事が好きで誇りを持っていることを言葉で伝えなくては何も変わりません。相手が職場であっても、家族であっても。

(福井新聞社提供)



イラスト・多田くにお